



社会医療法人財団 白十字会

白十字病院

2021年4月 新築移転開院記念

地域医療支援病院/基幹型臨床研修病院/救急告示病院/開放型病院/(財)日本医療機能評価機構認定施設

H A K U J Y U J I H O S P I T A L

「地いき、いきいき」健やか、よかまち

～地域の健康を育み、安全・安心を支えるLife Space～



ごあいさつ



社会医療法人財団白十字会
理事長

富永 雅也

Masaya Tominaga

白十字病院は1982年(昭和57年)2月に現在地に開院、現在40周年を迎えています。この間、医療の質の高度化と経営環境の改善に努めて参りましたが、民間病院にとっては苦難の時代の連続でありました。しかし、福岡大学、九州大学から優秀な医師のご派遣と力強いご指導を頂き、地元福岡市、糸島市医師会のご支援、200を超える連携診療所の先生方からのお支えで今日を迎えさせて頂いております。

この40年を振り返りますと、医療機関に求められる機能は急速に変化しました。当院は地域の救急ニーズ対応に出来るべく救急医療体制の充実を図り、1997年には地域医療情報室(現・地域医療連携課)を開設し、患者さんの継続治療を地域の連携診療所をお願いする逆紹介を推進し地域医療連携を図って参りました。開設30周年の2012年には福岡県より地域医療支援病院の認定を受けることが出来ました。

開設40周年の今年、466床のケアミックス病院を2つに分院化し、約400m南の地に地域の急性期ニーズに対応する282床の新病院と、

現地では急性期後の回復と在宅高齢者を支える160床の白十字リハビリテーション病院(約1年半をかけて増改築予定)として運営していくことと致しました。

福岡市西部も急速な高齢化が進行しています。高齢者特有の疾病の増加に対し、高度でありながらも低侵襲の医療を提供したいと思えます。例えば、増加する脳血管障害に対しカテーテルを用いた脳動脈瘤治療や、脳血管に詰まった血栓を除去する血栓回収療法、また脳出血に対して神経内視鏡を用いた低侵襲血腫除去術を行い、早期のリハビリ開始を可能とする脳卒中センター、高齢や合併症のため大開胸手術の適応外とされてきた心臓弁膜症患者さんに対し、小切開の低侵襲手術でありながら精緻で完成度の高い手術(MICS手術)を得意とする心臓・弁膜症センターの二つのセンターを開設いたします。泌尿器科では男性高齢者の多くが罹患する前立腺肥大症に対し、ツリウムレーザーによる前立腺蒸散術を導入しました。従来の術式と比べ出血や疼痛が少なく、合併症を抱えた超高齢者にも対応できます。

二つの病院で整備予定の地域包括ケア病棟では、地域の訪問診療医の先生方を後方支援する病院として、高齢化と共に激増する肺炎や褥瘡の治療、排泄リハビリや口腔ケア、栄養改善など、地域医療支援病院としての責務を果たして参りたいと存じます。

白十字病院の40年の歴史を支えて頂きました全ての医療人の皆様に感謝申し上げますとともに、関係者各位の今後一段のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、開院のご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ



社会医療法人財団白十字会
白十字病院 病院長

淵野 泰秀

Yasuhide Fuchino

感謝

白十字病院は1982年2月1日に福岡市西区石丸の地に開設され、今年、40年目を迎えました。開院以来、地域住民の方々、医療機関や介護・福祉施設に関わる皆様、そして、医師会、行政の方々、また、福岡大学、九州大学からの温かいご支援を頂きながら、「地域の病院」として少しずつ成長していくことができました。

皆様方の支えのお陰で、2011年4月社会医療法人財団、2012年7月地域医療支援病院、2012年9月基幹型臨床研修病院、また、2021年4月より内科専門医研修プログラム基幹施設の認可を受け、我々の果たすべき社会的責務は年を追うごとに重くなってまいりました。

その一方で、診療機能の拡充に伴う機器の導入や職員数の増加によりスペースは手狭になり、長い時間と共に老朽化が進んだ建物は、いよいよ建て替えを迫られることとなりました。そのような折、立地・面積

において条件に合致するこの土地のご縁があり、福岡市からこの場所での事業継続の許可を受けることができました。地域住民の皆様には、我々の思い描く病院像に対する深いご理解と強い後押しを頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

今、超高齢化社会に向け、地域医療構想、地域包括ケアシステムが形成されていくなかで、病院には地域における役割と立ち位置をしっかりと見据えた医療を展開することが求められています。これまでのケアミックス型病院から急性期機能に特化してリニューアルを迎えた白十字病院が担うべき役割は、①専門医療、②救急医療、③在宅療養後方支援、そして④地域のまちづくりであり、これこそが地域医療支援病院として掲げる使命、決して揺らぐことのない大きな四本の柱だと考えています。

草木が“節目”から芽が出て、枝葉を茂らせて成長していくように、白十字病院も開設40年目という“節目”を迎えました。新築移転した急性期病院(282床)と、これまでの場所に残ったりハビリテーション病院(160床)との分院化を絶好の機会と捉え、両病院の機能と専門性の向上に邁進し、未来に向けてさらに大きく成長していくことを、職員一同、決意を新たにしております。今後とも皆様方からのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本新築移転事業の設計・施工にご尽力頂きました株式会社日本設計様・鹿島建設株式会社様をはじめとした関係各位には、私どもの「医療に懸ける思い」そのままを形にいただいたものと、厚く御礼申し上げます。

白十字病院と福岡大学脳神経外科



福岡大学医学部
脳神経外科 教授
井上 亨 様

白十字病院40周年おめでとうございます。新築移転後の白十字病院は急性期病院(282床)として、旧病院は白十字リハビリテーション病院(160床)として福岡市西区の地域医療を担うことになります。1982年に(故)富永雄幸理事長が現地に白十字病院を開設され、1999年に富永雅也先生が理事長に就任されました。そして「患者さんが一日も早く社会に復帰されることを願います」という基本理念のもと、2012年には地域医療支援病院の認可を受け名実ともに福岡市西区の医療を支えています。雅也理事長は「医療スタッフを大切に」をモットーに、その専門性を引き出す環境作りに取り組まれてきました。多忙な医師の負担軽減のためいち早く「医療秘書」や「説明支援ナース」制度を設けられ、私は大いに刺激を受けました。また、少子高齢化社会へ向けて、地域医療連携ネットワークを構築されるなど、斬新なシステム作りには感銘させられます。2つの病院は、急性期から在宅まで地域住民の健康保持になくてはならない病院として益々発展すると確信しています。

ご存知の方も多いと思いますが、白十字病院と福岡大学脳神経外科は深い縁で結ばれています。福岡大学医学部脳神経外科(1973年創設)初代教

授(故)朝長正道先生と(故)富永雄幸理事長は旧制佐賀高等学校の同級生であり大の仲良しであったそうです。雅也理事長によると、白十字病院を現在の西区石丸に開設するようにアドバイスしたのは朝長正道先生でした。当時は広大な田園地帯でしたが、40年の間に大都市に大きく様変わりし両先生の先見の明に感心させられます。同系列の佐世保中央病院が新築移転(1995年)した時に、脳神経外科のみ福岡大学から派遣されたのも(他は長崎大学)お二人の友情によると思います。現在、福岡大学脳神経外科から両病院に9名の医局員がお世話になっています。

さて、新築移転に伴い脳卒中センターを新規開設することになりました。当センターでは、脳神経外科・脳血管内治療科(新設)・脳血管内科・リハビリテーション科が協力し、術後早期から専門的リハビリテーションを開始し急性期から慢性期まで治療を途切れることなくスムーズに行うことで脳卒中患者さんの早期社会復帰を目指します。最新のハイブリッド手術室やナビゲーションシステムを新たに装備し、従来の脳動脈瘤クリッピング術に加え、コイル塞栓術・血栓回収療法などのカテーテル治療、神経内視鏡を用いた低侵襲血腫除去術を行います。また、内科による脳卒中リスク因子の診断と最良治療に加え、頸部内頸動脈血栓内膜剥離術(CEA)や浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス術(STA-MCAバイパス術)を行います。

2018年12月、通称「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、日本脳卒中学会による一次脳卒中センター(Primary Stroke Center:PSC)認定制度(認定要件参照)が開始され、当センターもPSCに認定されました。これまで以上に医局員がお世話になるとは思いますが、ご指導とご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。最後に、開設40周年を迎えられた富永雅也理事長はじめ職員の方々に敬意を表しお祝いのご挨拶とさせていただきます。

新病院開院に寄せて



福岡大学医学部
消化器外科 教授

長谷川 傑 様

白十字病院の新築移転、おめでとうございます。コロナ禍の難しい状況の中でこの日を迎えるまでには関係の皆様方には多くのご苦勞があったものとお察しいたします。

内覧会で拝見いたしました。新病院の「地いき、いきいき」健やか、よかまち というスローガンの通り、地域との調和・連携を意識された病院だなと感じました。病院の周囲には公園や散歩道などがあり、入院患者さんと地域住民の皆様との交流・憩いの場となることが目に浮かびます。病院の周囲にもまだスペースに余裕があり、これから様々な拡張の可能性も感じさせるものと思います。また病院機能としても、ハイブリッド室も備えた最先端の手術室・落ち着いた雰囲気のある病棟・景色の良いリハビリ棟・公開講座などもできる会議室・広い立体駐車場などこれからの医療情勢をよく考えてつくられているなど感服致しました。日本では今後ますますの高齢化社会を迎え、病院経営は急性期と回復期・療養型の使い分けが重要になってきます。

そのような時代の流れに遅れず、先手先手をうって対処されるのは白十字病院の伝統である先取の精神のスピリッツだと思います。今回、これまでの白十字病院の伝統である地域を大切に「心のある医療」というソフト面に、今回新病院というハードが刷新されたことで間違いなく成功されるものと確信しております。

白十字病院の外科のスタッフは淵野病院長を始めとして多くは福大の外科の出身者です。私も週に1度外科の手術や診療に参加しておりますが、これから新しい病院で手術できるのが楽しみです。新しい手術室で手術件数も飛躍的に増加されることを期待しております。数年後には福岡大学も新本館の竣工を予定しています。私も福大病院の新本館の建設に関わらせていただいておりますが、白十字病院の新館の良いところを参考にさせていただいて良い病院ができるように努めていきたいと思っています。

最後になりますが、これからもますます地域の皆様に愛される白十字病院となることを祈念して、私どもも微力ながらサポートさせていただきます。

祝 辞



九州大学大学院医学研究院長
病態機能内科学(第二内科) 教授
北園 孝成 様

社会医療法人財団白十字会白十字病院新病院のご竣工にあたり、理事長富永雅也先生、病院長淵野泰秀先生をはじめ職員の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

白十字病院は、昭和57年2月1日に開院され、40年間にわたり福岡の医療に多大な貢献をされてきました。現在、23診療科、10専門診療施設を中心に、466床を有する地域の基幹施設に発展されるとともに、平成24年7月27日には福岡県より地域医療支援病院に指定され、“患者さんが一日も早く社会に復帰されることを願います”という理念をもって、地域の皆様に安心・安全な医療を提供するために邁進して来られました。富永先生、淵野先生のリーダーシップのもと、職員の皆様が熱意を持って地域医療に貢献してこられたことに心より敬意を表したいと思います。

さらに、富永雅也先生は私どもの教室の大先輩でいらっしゃいます。昭和56年に入局され消化器研究室に在籍されて消化管疾患の臨床、研究、教育にご尽力いただき、また、長年にわたり教室員を指導していただ

いております。現在、岩瀬正典副院長、入江克実経営企画センター長をはじめ、糖尿病内科、脳血管内科、腎臓内科、消化器内科、リハビリテーション科、内分泌内科に20名の医師が勤務させていただき、直接のご指導をいただくとともに、医局に対してもさまざまな面からご支援をいただいております。富永先生が育んでおいでになった白十字病院がこのような発展されることは私ども医局員一同にとりまして大変ありがたく嬉しいことでございます。

さて、超高齢社会をむかえて、社会保障費の増大や医療従事者の負担増など、我が国の医療を取り巻く環境は益々厳しいものとなってきております。その中で富永先生は466床のケアミックス病院である白十字病院を2つに分院化され、急性期医療に特化した新病院を建築されました。残りの病床は白十字リハビリテーション病院として運営されるとお聞きしております。新病院には血管内治療や低侵襲手術などの機能を充実された脳卒中センターならびに心臓・弁膜症センターを開設される予定です。我が国では増加する循環器病対策のために、令和元年に脳卒中・循環器病対策基本法が施行され、令和2年に循環器病対策基本計画が決定され、今年から本格的な循環器病対策がスタートしました。白十字病院は福岡西部地区における脳卒中・循環器病の中核病院として循環器病対策にご尽力いただくことを期待しております。

新型コロナウイルス感染症の拡大も加わって、社会や医療環境も大きな変革の時期を迎えております。これまでの40年間にわたる着実な実績をもとに、さらにパワーアップされた白十字病院が益々発展されることを祈念しております。

新病院開院祝辞



一般社団法人 福岡市医師会
会長

平田 泰彦 様

社会医療法人財団白十字会白十字病院創設40周年という節目の年に、急性期医療に特化した新病院開院を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

白十字病院は昭和57年に、背振山系から糸島半島に至る緑の連なりや、博多湾に注ぐ室見川など自然豊かな福岡市西区石丸の地に開設され、以来、今日まで地域の医療ニーズや医学・医療技術の進歩に対応し、常に患者さんの状況に応じた良質で高度な医療サービスを提供してこられました。

診療分野においては466床を擁する十全な病院機能や豊富な臨床実績は言うに及ばず、これまでに、救急告示病院、開放型病院、地域医療支援病院の指定を受けられ、「専門医療」「救急医療」「在宅療養後方支援」「地域との交流」を大きな柱として患者さんや周辺医療機関の架け橋となるべく、名実ともに福岡市西部地域を代表する医療施設として、40年に亘り地域医療の重責を担ってこられました。

この度の新病院開院にあたりましては、建物の老朽化が進む一方、年間4,000台以上の救急車の受け入れを行うなど、益々高まる急性期医療のニーズに対応するため、移転した福岡市西部青果市場跡地に急性期病床として282床を移し、現在地にはリハビリテーションを中心とした160床を残す形で新たなスタートを切ることになりました。医療の質を高水準に維持した上での移転は大変なご苦労があったことと存じますが、富永雅也理事長ならびに淵野泰秀病院長をはじめ全ての職員の皆様のご尽力により、より一層パワーアップした形で新たな出発の日を迎えられたことは、地域住民や我々医療従事者にとっても、大変心強く、喜ばしいことであります。

新病院は多目的ホールやコミュニティサロン、健康フィットネス広場を併設し、地域との交流促進や地域住民の健康増進を図るとともに、地域の災害拠点としての対策設備も万全で、まさに新病院のコンセプトである「『地いき、いきいき』健やか、よかまち～地域の健康を育み、安全・安心を支えるLife Space～」が体现されています。

現在、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症への対応につきましても、白十字病院は地域住民を守るべく、献身的な姿勢で地域医療の第一線において奮闘いただいております。感謝の念に堪えません。今後の感染症対策、医療提供体制のあり方が問われるなかで、白十字病院に寄せる地域住民、そして我々医療従事者の期待は益々大きくなるばかりです。今後におかれましても、病院機能の向上や高度な医療の提供をはじめ、満足と安心を与えることのできる基幹病院として、大いに発展されることを強く願いますとともに、白十字会グループの更なるご隆昌と職員の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

「いきいき」と 暮らせるまち

01 地域との交流、人々の健康を 支えて元気に暮らせるまち

地域住民との交流の拠点として

●多目的に利用できる”いきいきホール”

いきいきホールは地域の人々がアクセスしやすいよう1階のエントランス近くに設け、地域との交流が促進できるよう開放します。
各種交流会や市民講座などの催しものを通して交流をはかり、人と人との繋がりを大切にします。市民講座などでは当院の専門知識や専門スタッフを地域に還元し、人々の健康づくりをサポートする体制を実現します。



イメージ



●健康な生活習慣づくりを実現するまち

健康フィットネス広場には運動機能やリハビリ機能の向上遊具を設置し、住民が自由に利用できる賑わいのある広場を目指します。



あんばベンチ



上体伸ばし



脚伸ばし

●地域の人々が利用できるコミュニティサロン

地域の人々が自由に集えるコミュニティサロンを設置。
サロンは地域の方々の集会所的な機能も担います。例えば認知症患者が増加する中、「住み慣れた地域で自助、互助ができるまちづくり」を目指し、コグニサイズ（認知症予防体操）などをおこない、地域ぐるみで認知症予防に取り組みます。その他、教室・講演会・情報発信の場として利用できます。

※2022年開設予定



イメージ

●歩きたくなるまちづくり

福岡市が推進するまちづくりの一環としてウォーキングを楽しめる歩道を整備しました。地域の方々や四季を感じながら健康のためにも、散歩やジョギングを楽しめるにぎやかで活気あふれるまちづくりを目指します。





02 地域の防災・防犯力を高め、安全・安心に暮らせるまち

地域の災害拠点としての対策設備

●災害時の対策



トリアージスペース(平面駐車場)イメージ

災害時に多くの患者さんを受け入れるため、平面駐車場はトリアージスペースになります。

また、いきいきホールは処置室や病室として機能するように、医療ガスや非常電源などの医療設備を設置し、災害時に備えます。さらにフィットネス広場は、地域の方々の避難地、救助活動、救援物資の中継基地として機能するよう防災設備を設置します。このように、災害時でも医療継続を可能とした拠点病院として常に災害時を想定して様々な対策をおこなっていきます。



トイレとして利用できるマンホール



仮設テントとして利用できる東屋



釜戸として利用できるベンチ

03 地域の人々が快適で楽しく暮らせるまち

近隣公園と一体化

●みんなのレストラン・売店



地域の方々にも気軽にご利用いただけるよう、近隣公園に面した1階にレストランと売店を設けました。レストランでは季節によってメニューを変え、見て楽しむ、食べて楽しむ、賑わいのあるレストランを目指します。もちろん健康を意識したメニューなので安心してご利用いただけます。

売店では、飲み物や食べ物、入院時に必要な物まで取り揃えています。



写真はすべてイメージです

●みどり豊かなまち



福岡市の花(フヨウ)



福岡市の木(クロガネモチ)

地域環境に配慮したまちを実現するため病院周辺には緑を配置し、自然を感じられる元気なまちを目指します。周辺を緑化することで病院周辺を歩くだけでも、四季折々の緑を感じることができます。

04 地域環境に配慮したやさしく暮らせるまち

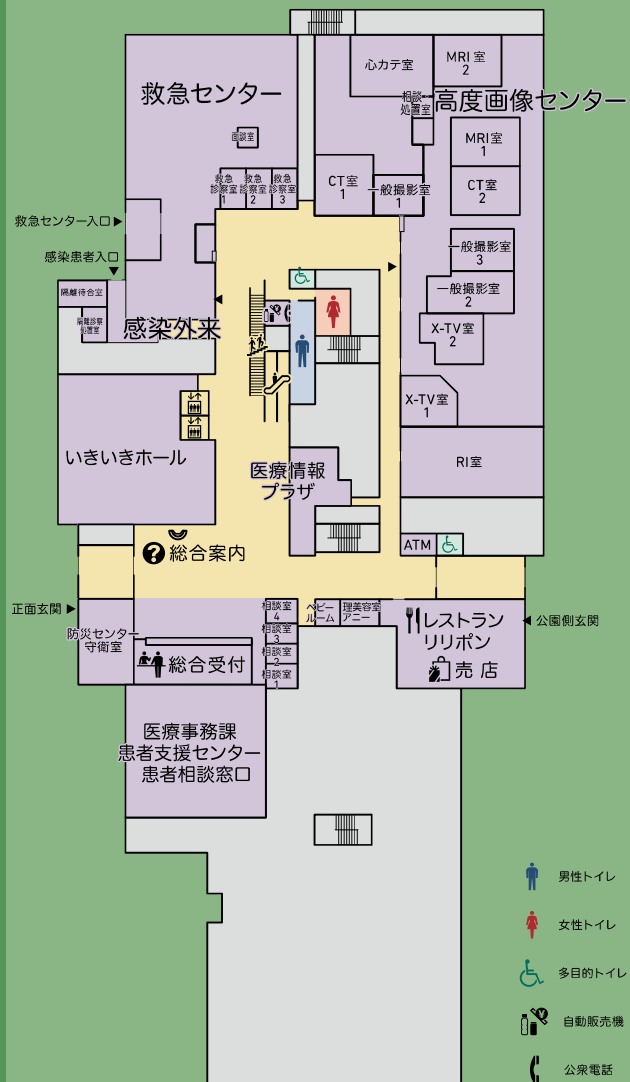
人に自然にやさしいまち

●ユニバーサルデザイン思想

●環境に配慮した駐車場

●バリアフリーに配慮

1F



エントランスホール

エントランスホールを2階までの吹き抜けとすることで、見通しの良い開放的な空間をデザインしました。

多くの方が行き交う1階には、患者さんやご家族にご利用いただけるレストランやコンビニエンスストアのほか、地域の方々との交流スペースとしても活用できるいきいきホールを備えています。

救急センターはエリアと設備を拡充し、福岡市西部および糸島市を中心とした救急医療のニーズに応えるために、さらに強固な受け入れ体制を整えていきます。



救急センター入口



正面入口アート



総合受付



高度画像センター待合



医療情報プラザ(患者さんの図書室)



レストラン リリボン



理美容室 アニー



いきいきホール

474台収容が可能な自走式立体駐車場

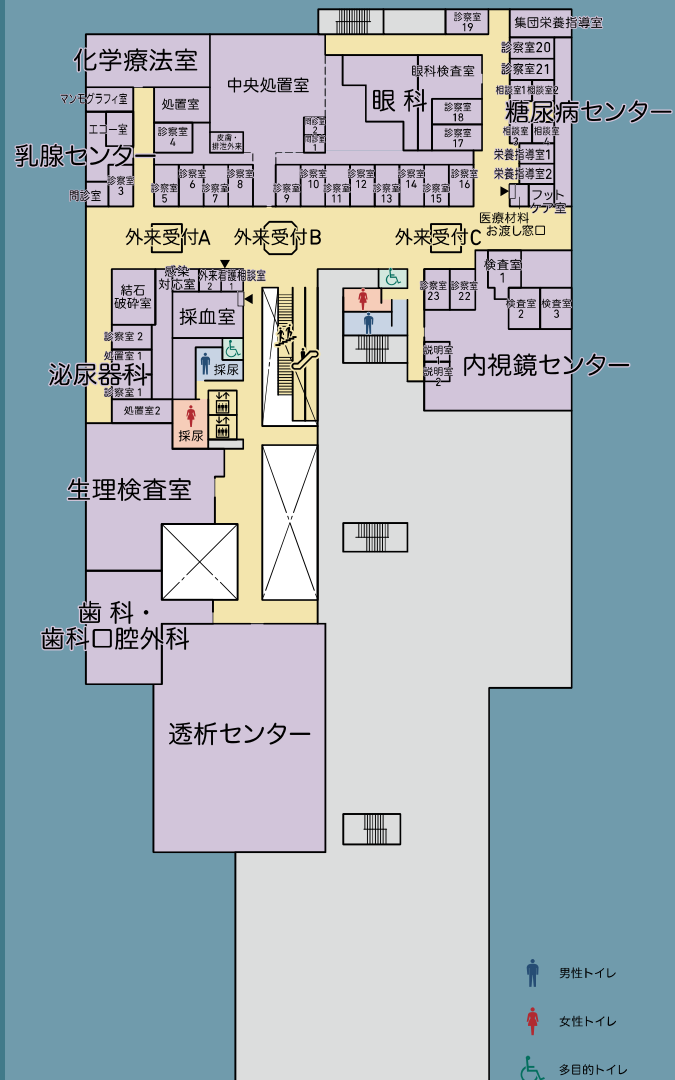


立体駐車場概要

- 収容台数: 474台
(平面駐車台数含む)
- 建物: 4階建(4層5段)

病院内敷地内に4階建(4層5段)の立体駐車場を整備しています。コンセプトの1つである「地域環境に配慮したやさしく暮らせるまち」を実現するために、建物の外装には、緑化を取り入れました。この緑は数年をかけて成長し、ゆっくりとその範囲を広げていきます。

2F



外来ブロック受付

外来診察室と検査エリアを集約し、患者さんに分かりやすく移動のしやすい設計としました。A・B・Cの3つの受付ブロックと各診察室の上部には番号表示モニターを設置し、プライバシーに配慮した呼び出しシステムによる案内方式を採用しています。診療機能のほか各種相談室の充実を図り、コンパクトで機能的なエリアを構成しました。



外来待合



診察室



外来ブロック受付



透析センター



内視鏡センター



乳腺センター



糖尿病センター



歯科・歯科口腔外科



生理検査室

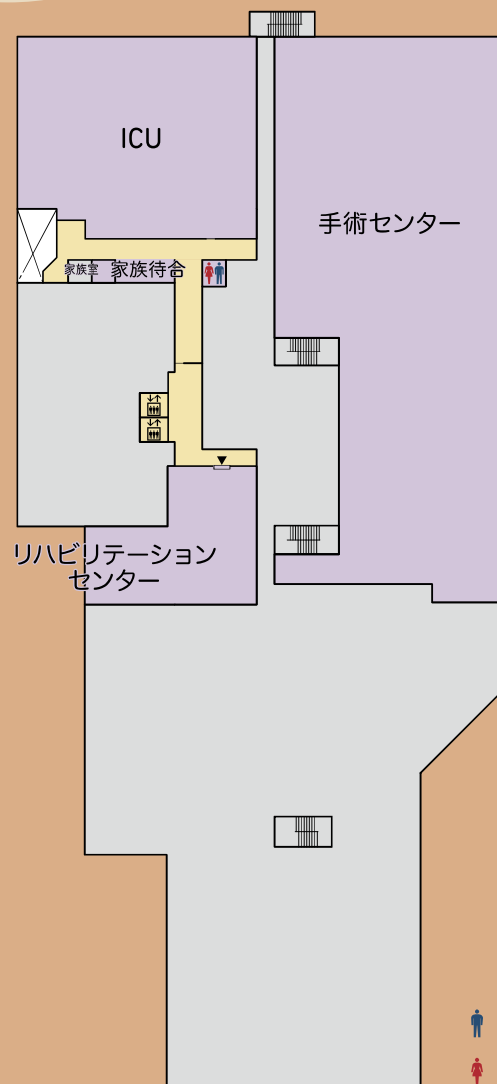


採血室



2階から1階の眺め

3F



手術室6

さらなる専門医療の充実を目指し、ハイブリッド手術にも対応可能な手術室を含む、全6部屋を擁する手術センターを整備しました。1階救急センターから手術センターに直結する専用エレベーターも配備し、緊急時の対応にも万全に備えます。隣接する形で全12床のICUを配置し、術後の全身管理を要する患者さんにとって、安心・安全な医療を提供できる体制を構築していきます。



手術室入口



手術室 3



ICU

充実したリハビリテーションセンター



明るく開放的な空間



リハビリ用具なども充実



屋外歩行訓練用のテラス

4F

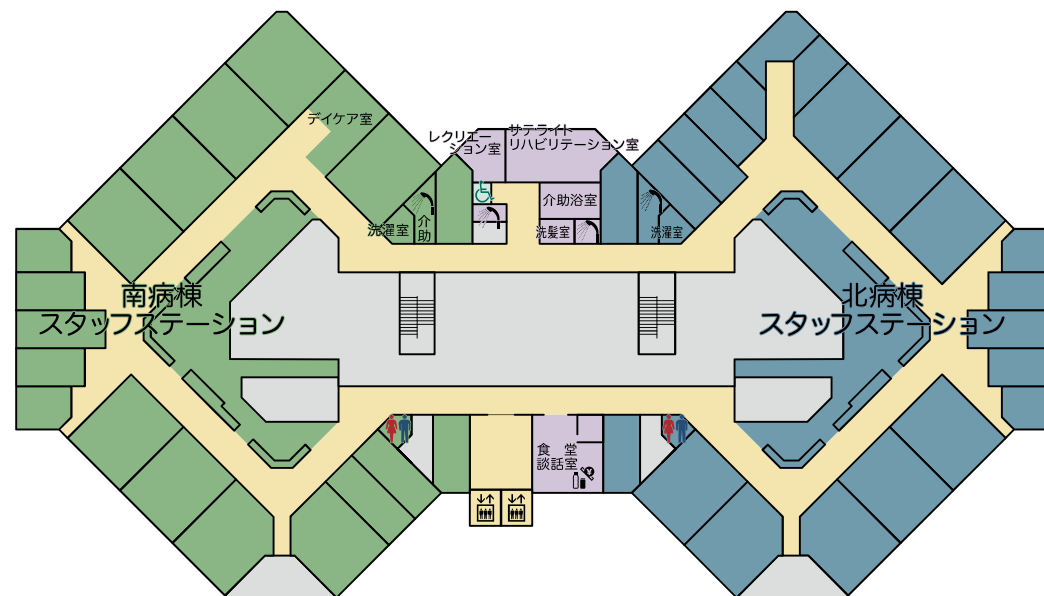
- 北病棟：401～421号室
(心臓・弁膜症センター)
- 南病棟：451～468号室
(脳卒中センター)
- デイケア室
- レクリエーション室
- サテライトリハビリテーション室
- 介助浴室
- 食堂談話室

5F

- 北病棟：501～521号室
- 南病棟：551～568号室
- デイケア室
- レクリエーション室
- サテライトリハビリテーション室
- 介助浴室
- 食堂談話室

6F

- 北病棟：601～621号室
- 南病棟：651～668号室
- デイケア室
- 健康教室
- サテライトリハビリテーション室
- 介護浴室
- 食堂談話室



- 男性トイレ
- 女性トイレ
- 多目的トイレ
- 自動販売機
- シャワー室

デザインが特徴的な『ダンベル型病棟』を4階・5階・6階の3フロアに設けました。
 患者さんのケアや見守りを最優先に、スタッフステーションを病室群の中心に配置することで、病棟全体を見渡すことを可能としています。
 フロアごとに異なる壁紙の色味や、病室の内装に取り入れた多彩な配色には、社会復帰を目指す患者さんの入院生活が、明るく前向きなものであるようにとの願いを込めました。



4階エレベーターホールの壁紙

4F

新センター
開設

■脳卒中センター

このたび、当院は一般社団法人日本脳卒中学会による、
一次脳卒中センター(Primary Stroke Center:以下PSC)に認定されました。



4階南病棟スタッフステーション

●日本脳卒中学会が定めるPSCの認定要件●

1. 地域の医療機関や救助隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療(rt-PA静注療法を含む)を開始できる
2. 頭部CTまたはMRI検査、一般血液検査と凝固学的検査、心電図検査が施行可能である
3. 脳卒中ユニット(SU)を有する
4. 脳卒中診療に従事する医師(専従でなくてもよい、前期研修医を除く)が24H/7D体制で勤務している
5. 脳卒中専門医1名以上の常勤がいる
6. 脳神経外科的処理が必要な場合、迅速に脳神経外科医が対応できる体制がある
7. 機械的血栓回収療法が実施出来ることが望ましい。実施できない場合には、血栓回収脳卒中センターや包括的脳卒中センターとの間で、機械的血栓回収療法の適応となる患者の緊急転送に関する手順書を有する
8. 定期的な臨床指標取得による脳卒中医療の質をコントロールする

※日本脳卒中学会PSC認定要件より抜粋

■心臓・弁膜症センター

MICS手術をはじめとした、
高度かつ低侵襲の医療を提供します。



4階北病棟スタッフステーション



6階病室からの眺め



多床室



個室



ダイエタ室

竣工までの歩み Process

設計は2015年2月より約3年半、施工は2019年2月より約2年間にわたって行われました。その間、台風をはじめとした自然災害による建物への被害や、新型コロナウイルス感染拡大による建築工事の遅延等が懸念されましたが、関係各位の周到的な準備と徹底した安全対策により、当初の計画通りに竣工を迎えることができました。

起工式

2019年3月10日



上棟式

2020年2月18日



2019年7月29日



2019年11月19日



2020年3月16日



2020年7月13日



2020年9月7日

■ 病院棟概要

敷 地 面 積	18,926.66㎡
建 築 面 積	病院棟:5,251.41㎡(駐車場等含む) 駐車場棟:2,556.28㎡
延べ床面積	病院棟:22,590.08㎡ 駐車場棟:9,433.75㎡
構 造	病院棟:S造 耐震構造 駐車場棟:S造
階 数	病院棟:地上7階建 駐車場棟:4階
設 計 期 間	2015年11月～2019年2月
施 工 期 間	2019年2月～2021年2月
設 計	株式会社日本設計
施 工	鹿島建設株式会社



■ 設備概要

電 気 設 備	受電方式2回線受電(3φ3W60HZ) 変圧器容量/4,600KVA 予備電源/ディーゼル発電機 500KVA×2台
空 調 設 備	熱源 ガス焚吸収式冷温水発生機(330USRT×2台) 空冷ヒートポンプチラー(50HP×7台) ガスコージェネレーション(35kW×2台) +プレート熱交換器コイル(温水113kW) 空調 空気調和機 ファンコイルユニット 空冷ヒートポンプ式パッケージエアコン(電動) 換気 外気処理空気調和機+排気ファン 個別全熱交換器
衛 生 設 備	上 水 : 加圧給水方式 受水槽(市水+井水)有効165㎡ 雑 用 水 : 加圧給水方式 受水槽(雨水+井水+市水)有効135㎡ 空調用給水 : 加圧給水方式 受水槽(市水+井水)有効65㎡ 給 湯 : ガス温水ボイラー(465kW×2台)+ 貯湯槽(3000L×2台)+ コージェネレーション排熱(113kW) 排 水 : 汚水、雑排水、高温排水、厨房排水、検体検査排水、 透析排水、RI排水 そ の 他 : 都市ガス(中圧引込)、医療用ガス、滅菌用蒸気
防 災 設 備	電気 : 自火報、ガス警報、消防通報、非常放送、避難誘導灯 消火 : スプリンクラー消火、ダクトフード消火、連結送水管、 移動粉末消火、ガス消火 排煙 : 機械排煙
昇 降 機	エレベーター : 患者用2基・スタッフ用5基 エスカレーター : 2基

● 基本理念 ●

患者さんが1日も早く社会に復帰されることを願います。

● 基本方針 ●

1. 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の快適な療養環境を提供いたします。
1. 地域医療機関との連携に努め、市民のニーズにあった診療活動を展開することにより、社会に貢献できる病院を作ります。
1. 職員の総和をもって、納得の医療を推進し、患者さんから信頼され、愛される病院を作ります。
1. 最新の医学情報と医療設備を導入し、日進月歩の医学に正面から取り組みます。
1. 病院人として社会人として、信頼される人格をもった責任ある人間を育成いたします。
1. すべての職員にとって、かけがえのない価値ある職場であるよう努力いたします。

〔 標榜診療科 〕

内科、糖尿病内科、脳・血管内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、肝臓内科、消化器内科、心臓血管内科、内分泌内科、呼吸器内科、放射線科、精神科、外科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、肛門外科、乳腺外科、心臓血管外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、眼科、救急科、麻酔科、リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科
(計32診療科)

〔 センター 〕

脳卒中センター、心臓・弁膜症センター、肝胆膵センター、糖尿病センター、内視鏡センター、透析センター、乳腺センター、救急センター、手術センター、高度画像センター、創傷治癒センター
(計11センター)

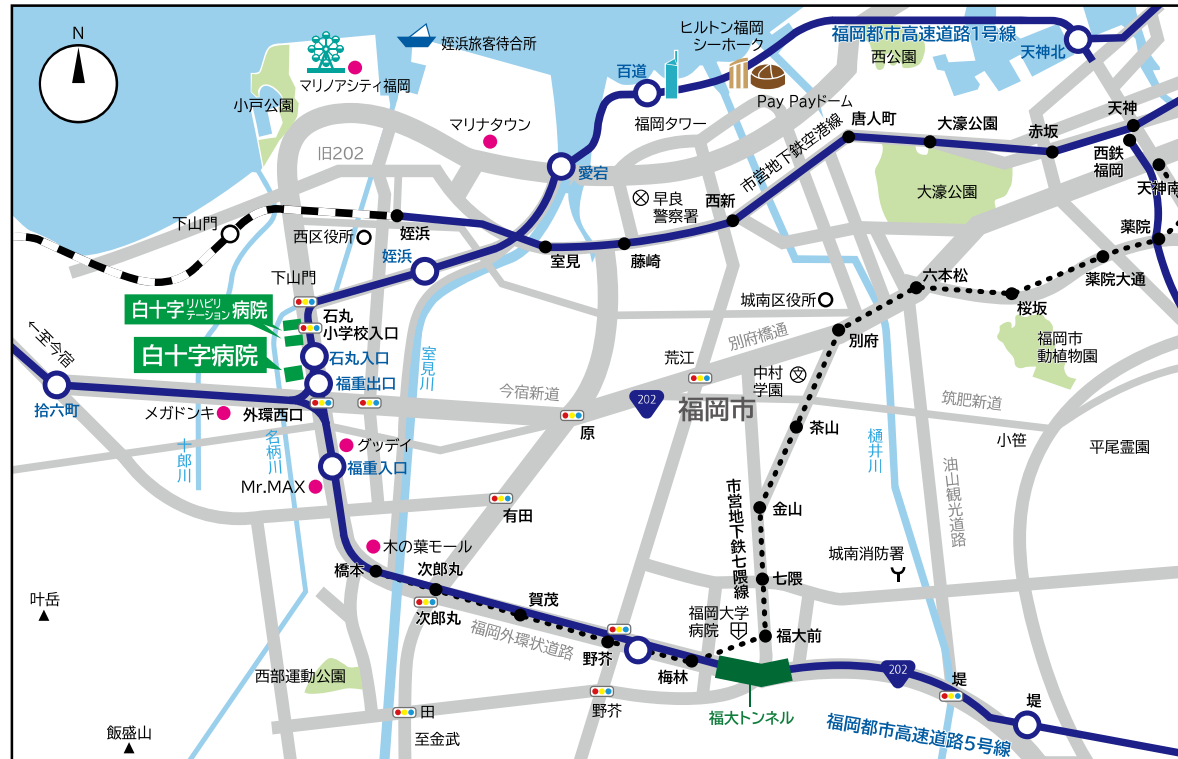
〔 病院概要 〕

- 開院日 / 2021年4月1日
- 名 称 / 白十字病院
- 所在地 / 福岡県福岡市西区石丸4丁目3-1
- 病床数 / 282床(高度急性期:12床、急性期:225床、地域包括ケア:45床)

〔 外来診療 〕

- 受付時間 / 8:45～11:30
- 診療時間 / 9:00～12:00・13:00～17:00
- 休 診 日 / 土曜・日曜・祝日・盆休み・年末年始

MAP



お車をご利用の方

福岡都市高速をご利用の方

- 天神方面(内回り)から: 姪浜出口から石丸/内浜方面に向かって約3分
- 野多目方面(外回り)から: 福重出口から小戸/姪浜/石丸方面に向かって約5分

西九州自動車道をご利用の方

- 今宿・糸島方面から: 拾六町出口から約8分

国道202号線をご利用の方

- 六本松・天神方面から: 「外環西口」交差点右折250m
- 今宿・糸島方面から: 「外環西口」交差点左折250m

西鉄バスをご利用の方

- 博多駅(交通センター1F)・天神(ソラリア前)方面から:
「506」番(都市高速経由「野方」行)約36分、「石丸二丁目(都市高下)」下車
- 姪浜(南口)から: 「1-4」番(「野方」行)約11分、
「石丸二丁目(都市高下)」下車

タクシーをご利用の方

- 福岡市営地下鉄「姪浜駅」から約7分
- 福岡市営地下鉄「橋本駅」から約7分

<http://www.fukuoka.hakujujikai.or.jp>

〒819-8511 福岡県福岡市西区石丸4-3-1

TEL:092-891-2511(代表) / FAX:092-881-4491(代表)